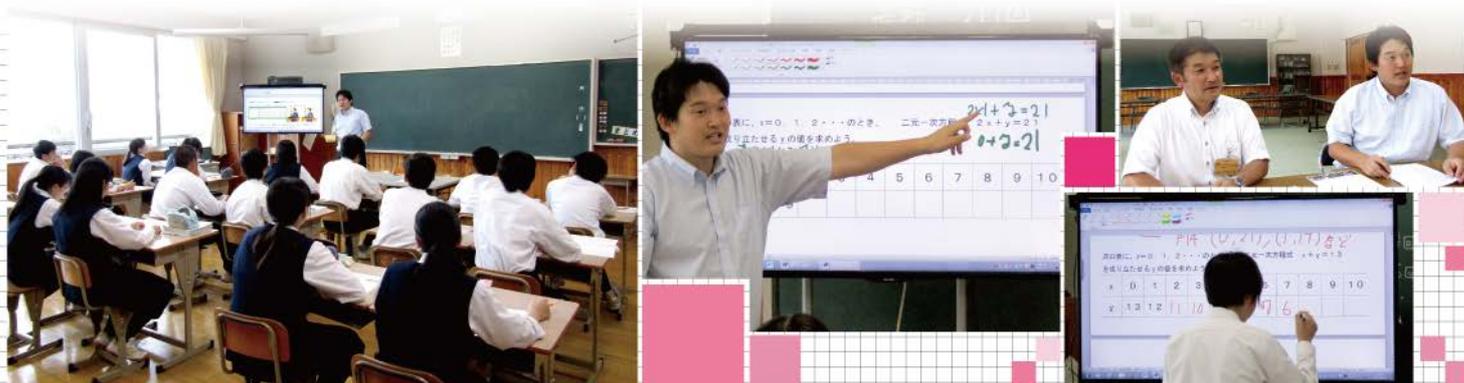


導入事例
てれたっち

授業の準備や進行がよりスムーズに! さらに、生徒の反応がわかりやすく、積極性も引き出した!



丸子中では、数学の授業で情熱あふれる授業が展開されていました。Wordファイルで作った学習カードを使ったシンプルな授業ですが、そこに生徒のやる気を生み出す独特の演出がありました。他にも、社会科や英語でそれぞれの先生が「てれたっち」を使って授業の工夫を模索中です。生徒の積極性も引き出す効果も感じられた「てれたっち」を使った授業をご紹介します。
※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。



※ディスプレイは別売りです。

導入商品

外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」

DA-TOUCH / WB



「てれたっち」を活用する後藤先生

「てれたっち」はセッティングがとても簡単。

「てれたっち」を使ってみたいいかがですか?

後藤先生: 丸子中には一体型の電子黒板が一台ありますが、使用する場合は教室まで持って行かなければなりません。前の授業でどの先生が使用しているか把握できない時や、離れた教室で使っている時など、10分の休み時間内で移動させ、しかもセッティングまで完了させるのはとてもたいへんでした。しかし、「てれたっち」が導入されてからは、その苦労が一変しました。機器のセッティングは誰でも簡単にできず、キャリアプレーション設定もあつという間です。今まで使っていた一体型電子黒板ではできなかったことです。その点が一番大きな違いですね。

「これまでとは一変、生徒が顔を上げて集中するように!

「てれたっち」を使った授業の反応はいかがでしたか?

後藤先生: 私は、授業で学習カードを使います。これは、その授業の内容をまとめたもので、「てれたっち」でもこの学習カードを効果的に使えないかと思いました。学習カードに記載してある問題などを表示して、授業時間内に把握させたいポイントを書き込んだり、特に注目してほしい点を拡大表示したりして、生徒たちがその日の授業に入り込みやすい仕掛けを行います。

連立方程式の初期段階の授業で、まず、「今やるところはここだよ」というように部分的に表示して生徒の意識を集中させます。次に、もう一つの式に表示を切り替えました。拡大・縮小をうまく使えば並べて表示ができ、見比べることができます。もしペーパーだけの学習カードなら、生徒たちは机上のプリントをじっと見たまま顔を上げることはなく、生徒の表情を読み取ることができません。また、どうしても大きく見せたい部分がある場合は、模造紙などに手書きして黒板に貼っていましたがその準備は大変です。生徒が私の方を向いて授業を受けてくれれば、教師側も生徒の反応がわかりますし、生徒の積極性も出てくるようになりました。



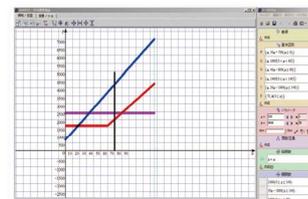
「てれたっち」を併用した授業風景

「てれたっち」の可能性は、ますます広がる

教育現場のICT活用について、将来の展望について一言お願いします

後藤先生: 中学校の授業は、これからますます「対話的」になっていくと思います。それを様々な形で実現させてくれるのが、私はICTだと思います。ですから、授業における対話のツールの一つとして、「てれたっち」を上手く活用していきたいですね。生徒にしてみれば、自分が学習した「振り返り」にも使うことができ、周りの友達との意見の共有にも使えます。デジタルは形として残らないと言いますが、やり方次第で残せるはず。それを教師が真剣に考え、生徒をエスコートしなければいけません。

小池指導主事: 今回、「てれたっち」という機器に出会いました。そして、後藤先生の授業を拝見しました。そこで感じたことは、後藤先生は単に機器を使いこなすだけでなく、生徒のことを思った授業スタイルの変革で、その熱意が伝わってきました。教師の中には、自分の形を長年続ける一方で不安を抱えながらも、何も着手できていない方も多くいます。後藤先生をはじめとする皆さんの実践によって、刺激を受けてもらえればと思います。ツール活用のメリットをお互いに共有し、より良い改善策が発見できることを期待します。



数学ソフト「GRAPES」の画面
(GRAPES 開発者名: 友田勝久氏)

取材にご協力いただいた先生



後藤 圭 先生 (数学担当)

学習カードや数学ソフトの「GRAPES」などを活用し、生徒の心を掴む授業を展開。



小池 心吾 先生 (上田市教育委員会 学校教育課 指導主事)

新しい授業スタイルを取り入れるために、教育現場への ICT 機器導入を推進する。

CLIENT DATA



導入学校 / 上田市立丸子中学校
所在地 / 長野県上田市
開校 / 1947年